

※本告辞は英語により行われたものであり、以下はその日本語訳を掲載しています。

2026年9月25日

令和8年度9月 学位記授与式 学長告辞

九州工業大学長 安永卓生

本日ここに、博士前期課程、博士後期課程を修了される皆さん、誠におめでとうございます。九州工業大学を代表して、心からお祝い申し上げます。また、皆さんの学びと研究を支えてこられたご家族、友人、指導教員、そして関係するすべての方々に、深い敬意と感謝を申し上げます。

皆さんの多くは、国や地域、言語、文化を越えて本学に集い、専門を深く学んできました。研究が進まず、前提そのものを問い直した日もあったでしょう。その経験と、身に付けた科学的探究のプロセスこそ、学位が証明するものです。これからどの分野へ進んでも、世界で活躍する皆さんの確かな基盤となります。

九州工業大学の建学理念は、「技術に堪能なる士君子の養成」です。この言葉をあらためて皆さんに送ります。「士君子」とは、性別や身分を指す言葉ではありません。技術の知と技能だけでなく、人格、志、社会への責任を結び、何のため、誰のために技術を使うのかを問い続ける人。それが今日の「士君子」だと私は考えます。それは一度完成して終わる姿ではなく、生涯学び、自らを「拵え」続ける姿です。「拵える」とは、段取りし、考え、手をかけ、試し、直しながら形にすること。この挨拶では、この意味を英語の craft という言葉で表現します。

本学は、大学を「知の社会実装機関」と捉えています。研究室で生まれた知を論文の中だけにとどめず、社会のニーズと研究のシーズの間を往還する。問いを見直し、新しい知を生み、社会に接続し、価値として実装する。この循環が九工大の特徴です。

九州工業大学ビジョン2040は、「Impact the Next Industry」のもと、未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」を掲げています。皆さんが培った専門性、粘り強さ、異なる人々と協働する力は、世界のどこにいても、この未来を現実へ

近づけます。

生成AIによって、答えらしきものを得ることは容易になりました。だからこそ、人の役割は小さくなるのではなく、深くなります。何を問いとして立てるのか。なぜ、誰と、どのような未来のために問うのか。その判断と責任が、これまで以上に重要です。

ここで、自分に問い掛けてください。私は今どこに立ち、何を強みとしているのか。他者と異なる経験や視点を、新しい知が生まれるインターフェースへ変えるにはどうすればよいか。自分を一步離れて見つめるメタ認知が、専門性を社会で生かす羅針盤になります。

問いは、見つければ終わりではありません。問いは、練り上げ、craft するものです。世界中で親しまれているゲーム、Minecraft を思い浮かべてください。まず、表面の下にある材料を探し、掘り出す。これが英語の mine です。そして、その材料を組み合わせ、それまでなかったものを craft する。問いも同じです。観察、データ、経験、そして対話の中から手掛かりを見いだす。英語の mine には「私のもの」という意味もあります。しかし、掘り出した知を「私のもの」ととどめてはなりません。それを他者と分かち合い、組み合わせ、意味のある新しい問いへと craft していく。その営みから、知を社会へ開く道が始まります。

AI が巧みに答えを生成する時代だからこそ、craft する営みには人間の責任が表れます。問いは、技術的に解けるだけでは十分ではありません。誰を見落としていないか。社会や環境に何をもたらすか。実装後、誰が責任を負うのか。現代の「士君子」は、これらを問いの中に織り込みます。

同じ専門、同じ評価軸、同じ答えへの速さで競う場面もあるでしょう。しかし、軸は一つではありません。専門性、文化を越える力、実装する力、説明する力、他者を結ぶ力。複数の軸から、自分が価値を生む組み合わせを選び、社会に必要な新しい物差しを提案してください。

新しい知を生むだけでなく、発信し、他者の知と結び付けることを楽しんでください。知は、共有され、批判され、異なる場所で試されることで、強く豊かになります。皆さんの発信が、次の研究、協働、社会実装の出発点になります。

皆さんには、技術を社会へ持ち出す勇気と、社会の声を研究へ持ち帰る謙虚さを期待します。ニーズとシーズの往還とは、社会との対話によって自分の知も変わることを受け入れる姿勢です。やってみて、途中で直す。その反復が未来を現実にします。

ここまで歩んできた自分自身の伸びにも、目を向けてください。知識や技術だけでなく、考え方、粘り強さ、人との関わり方も変わったはずです。それは皆さん自身の努力の成果です。同時に、その成長を生んだ学びの場、導いた教員や研究者、ともに悩み挑戦した友人や仲間への感謝も忘れないでください。ここで生まれたつながりは、修了の日で終わらず、これからも皆さんを支えます。九工大は、いつでも戻ってこられる場所です。新しい問いや成果を携えて、また戻ってきてください。

本日、皆さんは九州工業大学を修了します。しかし、ここで育んだ問いも、建学理念が示す歩みも、今日で終わりません。世界のそれぞれの場所で、自らを搾え、問いを craft し、知を生み、社会へ実装してください。技術に堪能であることと、責任ある人であることを結び、皆さんらしい軸で未来を切り拓いてください。新しい門出と、世界でのご活躍を心よりお祈りします。修了、誠におめでとうございます。